

## 「旅行パス作成」を通じた 実践的学習の試み

愛媛県立中央病院  
看護部 竹田 直弘

## 第21回愛媛クリニカルパス研究会

筆頭発表者のCOI開示  
筆頭発表者氏名：竹田 直弘

演題発表に関連し、  
開示すべきCOI関係にある企業等はありません。

# 01

## 1. 研修の目的と方法



愛媛クリニカルパス研究会  
公認キャラクター  
パスミン

## 研修の概要

【目的】 **新人看護師**がクリニカルパスの基本知識と運用方法を理解

【対象】 新人看護師 59名

【方法】 講義とグループワークの組み合わせで実践的に学習

【グループワーク】 「旅行パス」を作成

テーマ：『愛媛県内の1泊2日』

最終アウトカム：『みんなが楽しかった旅行だったと言える』

【評価】 研修後にアンケート、理解度調査、ファシリテーターからの意見収集を実施

## ファシリテーターの事前研修

### 第20回 愛媛県パス実務者の集い

#### 『楽しいパスの作り方』

主催：四国がんセンター

【グループワーク】

##### 「旅行パス」の作成

日程：2泊3日

人数：架空の2~4名

費用：自由 ※参加者で相談して決める

最終目標：みんなが楽しかった旅行だったと言える

【講義】

旅行パスと医療者用パスの紐付け



## 研修のながれ

### 導入講義

40分

クリニカルパスとは？  
運用状況とルール

### グループワーク

50分

旅行パスの作成

グループ

ファシリテーター

7~8名/G (計 8G)

1名/G (計 8名)



### 発表

25分

3組を選出して旅行パスをプレゼンテーション  
質疑応答



### まとめ

5分

「旅行パス」と「医療パス」の紐づけ  
研修の振り返り

# 02

## 2. 研修の成果



## 研修の成果：高い満足度と学習効果

### 参加者の声

参加者**全員**がグループワークを  
「楽しかった」、パスを「理解できた」と回答

### 理解度調査

パスの基本概念（標準診療計画、客観的評価、  
バリエーション対応）で**高い正答率**

### 学習効果

「旅行」という身近な題材により、  
抽象的なパスの概念を具体的に理解できた  
という意見が多数

### 総合評価

研修全体として、  
**高い満足度**と学習効果を確認

# 03

## 3. 課題と改善策



### 見えてきた課題と今後の改善策

課題 (As Is)	改善策 (To Be)
アウトカムや判断基準の設定が困難 抽象的な概念の具体化に苦勞	<b>具体例の提示と役割分担</b> 作成例を提示し、イメージを掴みやすくする。 グループ内で役割を明確化し、効率的な進行を目指す。
ファシリテーターの役割 進行や支援方法にばらつき	<b>支援の質を均一化</b> 誘導フレーズや声かけ例などのマニュアルの作成と、 事前教育を行い、支援体制を整備
医療パスとの紐づけが不十分 「医療の質を改善する手法」や「バリエーション登録」の 正解率が低い	<b>バリエーション対応のシミュレーション</b> 仮定のバリエーションを提示し、対策を議論・発表させ、 『作る』だけでなく『運用する』に拡大する。

### 結論と今後の展望

#### 【結論】

新人看護師がパスの基礎を楽しく、そして実践的に学ぶため有効な研修手法である。

#### 【今後の展望】

ファシリテーターの事前教育を強化

バリエーション対応の要素を追加し、臨床現場に近いシミュレーションを取り入れる

新人看護師がクリニカルパスを深く理解し、臨床現場で自信を持って活用できる能力を育てていく。



### 愛媛県立中央病院

県民の安心のよりどころとなる病院であること